

論文の内容の要旨

論文題名

膠原病に伴う間質性肺炎に対するポリミキシン B 固定化線維カラムを用いた直接血液灌流法の有効性と積極的導入基準の検討

掲載雑誌名

昭和学士会雑誌 第 83 巻第 1 号 2023 年 2 月発刊に掲載予定

昭和大学大学院保健医療学研究科
昭和大学保健医療学部看護学科
昭和大学統括臨床工学室
大石 竜

内容要旨

【目的】膠原病関連間質性肺炎（CVD-IP）における、ポリミキシン B 固定化線維カラムを用いた直接血液灌流法（PMX-DHP）の有効性を検証するとともに、CVD-IP に対する PMX-DHP の導入基準を追究した。

【対象・方法】PMX-DHP を実施した CVD-IP の急性増悪 12 例を対象に、基礎疾患、生命予後、動脈血酸素分圧/吸入酸素濃度比（P/F ratio）、CRP、CT pattern 等について、後方視的に比較した。

【結果】基礎疾患は、皮膚筋炎（DM）5 例、関節リウマチ（RA）5 例、全身性エリテマトーデス 1 例、重複症候群 1 例であった。28 日後の生存例は 5 例、非生存例は 7 例であった（生存率 41.7%）。基礎疾患別の生存率は DM で 80.0%、RA で 20.0%であった。P/F ratio は、PMX-DHP によりすべての症例において上昇した。さらに、PMX-DHP 実施前 P/F ratio は、DM で 320.0mmHg (199.1-364.4)、非 DM で 90.1mmHg (58.9-140.8) と DM で有意に高値であった。また、CRP は DM 1.1mg/dL (0.8-1.7)、非 DM 7.1mg/dL (4.1-18.3) と DM で有意に低値であった。一方、CT pattern 別では、非特異性間質性肺炎の生存率は 80.0%（5 例中 4 例生存）であったが、各項目において有意差は認められなかった。

【考察】CVD-IP の急性増悪に対する PMX-DHP は、肺線維化の進行を防ぎ酸化能の改善に寄与した可能性が考えられた。特に、DM では生命予後改善に対してより有益であると考えられた。一方、全例で P/F ratio が改善したことから、重症度を問わない有効性が示唆された。

【結語】CVD-IP においては、すべての症例において早期から PMX-DHP を導入することで、生命予後改善の可能性が期待された。特に基礎疾患が DM または CT pattern が非特異性間質性肺炎では、積極的に導入すべきであることが示唆された。